



2021年の年明けは「静かな年末年始」との呼びかけもある中、恒例行事の中止や移動の自粛などもあり、例年とは異なる様相となった。また、東北・信越地方などでは大雪による影響を受け、組合員・ご家族は不安を抱えながらの仕事と生活を余儀なくされたのではないだろうか。JR東日本の年末年始期間中の新幹線・特急列車のご利用状況は前年比33%となるなど、コロナ禍の中、「緊急事態宣言」も再発令され、私たちを取り巻く環境はさらに厳しい新年のスタートとなった。

### 「経営のチェック機能」は、JR東労組の任務である!

2021年の年明けは「静かな年末年始」との呼びかけもある中、恒例行事の中止や移動の自粛などもあり、例年とは異なる様相となった。また、東北・信越地方などでは大雪による影響を受け、組合員・ご家族は不安を抱えながらの仕事と生活を余儀なくされたのではないだろうか。JR東日本の年末年始期間中の新幹線・特急列車のご利用状況は前年比33%となるなど、コロナ禍の中、「緊急事態宣言」も再発令され、私たちを取り巻く環境はさらに厳しい新年のスタートとなった。

新型コロナウイルスの世界的な流行によって、すでに経済や社会のデジタル化が加速し、対面の行動が制約される中、オンラインやテレワークが日常になりつつある。経団連は昨年11月「新成長戦略」の中で、2030年の未来像とその実現に向けて「DX(デジタルトランスフォーメーション)を通じた新たな成長」「働き方の変革」「地方創生」「国際経済秩序の再構築」「グリーン成長の実現」の5つの分野の提言を政府・経済界を中心にあるべきアクションとして示している。

JR東日本会社は昨年9月、通期の業績予想と合わせて示した「変革のスピードアップ」は、経団連が示す成長戦略が強く意識された経営戦略と捉えられる。社長の新年のあいさつでも「時計の針が10年早く回りました。今私たちがなすべきことは何でしょうか。私は『変革2027』をめざす世界に向けた取組みのレベルとスピードを上げ、時代の変化に先んじて新たな価値をお客さまに提案し、サステイナブルに成長するグループとして生き残っていくことだと考えます。」とし、新年に入りグループのビジ

ョンについて、鉄道事業の割合を「変革2027」で示した7割から5割に更に引き下げることが示された。これは今情勢を踏まえ「変革」の更なるレベルとスピードアップへの経営側としての危機感の現れとも言えるのではないかと。専門家は10年かかる変革が数カ月で進んだと指摘する世の中において、悠長にしては行かない。JR東労組は、赤字決算とコロナ禍の情勢を踏まえ、昨年9月「雇用と職場を守るためのJR東労組緊急提言」を提出した。組合員の雇用と職場、そして生活を守るため「会社の発展」を目指し、愚直に取り組んでいる。具体的な現れる職場や働き方の変化に対しては、必要な技術の継承を確実に「安全第一」の職場の確立と、メンタルヘルスを含めた労働者の健康確保の視点で、施策議論・検証議論をつくり出している。

私たちは前を向き歩みを進めているにも関わらず、一部では経営方針と職場の現実が乖離していると言わざるを得ない事象が発生していることや、現場の社員が認識する前に、報道などにより経営幹部の考えや今後の方向性などが示されていることなどに対し、疑問や矛盾を指摘する声があるのも現実である。この現実を変革しなければ経営方針の実現は成し得ない。従って、組合員と家族のために、職場の力で疑問や矛盾から課題の核心を掴み出し、経営のチェック機能を果たし取り組むのが「JR東労組の任務」であり、その真価が問われる一年となる。

### ジェイアールバス関東本部

## ～バス関申3号「出向に関する緊急申し入れ」について、団体交渉を行う(1月7日)～

**組合員の声をもとに団体交渉を実施！**  
**出向する組合員をサポートし、検証してまいります！**

新型コロナウイルス感染症の爆発的な拡大が進む中、ジェイアールバス関東は運休や減便が続く、依然として業務量が激減している状況となっています。この間、雇用調整助成金制度を活用し、勤務免除(自宅待機)等で業務量の調整を行いながら運営しています。

そのような中でバス関東本部は、昨年の12月18日に同業他社への出向を2月1日から実施することを会社から説明を受けました。

グループ会社以外の同業他社への出向は初めてであり、12月26日に対象となる職場で緊急対話集会を開催しました。急遽ではありましたが、集会に参加した組合員からは多くの意見が出されました。

私たちは前を向き歩みを進めているにも関わらず、一部では経営方針と職場の現実が乖離していると言わざるを得ない事象が発生していることや、現場の社員が認識する前に、報道などにより経営幹部の考えや今後の方向性などが示されていることなどに対し、疑問や矛盾を指摘する声があるのも現実である。この現実を変革しなければ経営方針の実現は成し得ない。従って、組合員と家族のために、職場の力で疑問や矛盾から課題の核心を掴み出し、経営のチェック機能を果たし取り組むのが「JR東労組の任務」であり、その真価が問われる一年となる。



バス関東本部は、集会で出された出向先の労働条件や、業務に対する疑問や不安等を集約し、バス関申3号として全8項の緊急申し入れを提出し、1月7日に団体交渉を行いました。

- 申し入れ内容**
- 第1項 労働条件の概要・内容と今後の考えについて明らかにする。
  - 第2項 今受託に伴う出向期間については原則1年とする。
  - 第3項 出向期間満了後は、元職場への復帰を基本とする。
  - 第4項 出向発令する際は、社員に対して受託拡大の内容、労働条件等について詳細に周知した上で、本人の生活環境・生活設計などを丁寧に把握し、本人希望を最大限尊重する。
  - 第5項 受託拡大の実施については、安全と技術レベルの維持・向上が図られ、施策を担う組合員・社員が不安なく達成感を感じ、働きがいを持てるものとする。
  - 第6項 実施以降については、出向者の意見や職場の実態を把握し、検証議論を行う。
  - 第7項 今出向に伴う、支店間の要員配置(系統)の考えについて明らかにする。
  - 第8項 地域バス事業者と連携し、共同運行路線の受託等で業務量の確保と収益確保をめざす。

団体交渉でバス関東本部は「出向の期間については生活設計もあることから、本人の希望を把握すること」「キャリアを積んで、元職場で活かしたいという人に対して

- 【緊急対話集会で出された意見】**
- ・他の会社で乗務することに興味はある。行きたいという気持ちはある。
  - ・出向期間は1年と言われているが、1年で戻れるのか心配である。
  - ・なぜ出向なのか、共同運行区間の業務委託ではためなのか。
  - ・労働条件は出向先の基準となるのか。
  - ・今回は乗務員の出向だが、今後は車両係の出向もあり得るのか。
  - ・業務内容にも違いがあり、自分が行くとしたら不安しかない。
  - ・出向へ行って給料が今以上に減ることは無いのか。
  - ・出向を断ることはできるのか、行きたくなければ退職するしかないのか。
  - ・今後、支店がどうなってしまうのか、無くなってしまったら不安になる。



は、出向へ行く時に本人の意見を聞くこと」「元職場に戻れる前提で出向を決意している社員の現実を受け止めること」などを訴えました。また出向の議論だけではなく、この先どのような展望を生み出すのかも会社と議論できました。

ジェイアールバス関東が事業展開する中で、グループ会社以外への出向は今回が初めてとなりま。しっかりと労働条件を確定させ、出向する組合員が新たな職場で実力を発揮できる環境を構築するための議事録確認の締結を求めています。そして、今後も出向を担う組合員へのサポートをしていくと共に、実施後の検証をしていきます。

「JR東労組緊急提言」に基づき、組合員の雇用を守ることを前提として、大幅な減収となつていく会社の経営を立て直すための第一歩として、全組合員でコロナ禍を乗り越え、赤字経営からの脱却と健全な経営基盤の確立に向けて、私たちにできることは何かこれから議論を深めていきます。



新型コロナウイルスの日本国内での感染拡大が始まって、約1年が経過する

新型コロナウイルス感染症が拡大しはじめた頃、コロナに対する正しい知識がない中で、コロナに関する多くのデマに振り回された人も多かったのではないだろうか。ウイルスは耐熱性がなく、36〜37度の温度で死滅するから、多くのお湯を飲んで下さい」と私の元にもLINEが届いた。人間の体温が35〜36度前後なのに、なぜウイルスが体の中では死なないのかと情報を受け取った時に疑問しかなかった。しかし、この情報を信じる人は多くの友人や知人に情報を共有したという。また世界に目を向けると、デマ情報を信じたあまり、命を落とす事例も発生している。今検索履歴などから自分好みの情報ばかりが届くフィルターバブルというものがある。例えば、ダイエツトに関するSNSを検索したり、ページを1度や2度でも見ると、次からはダイエツトに関する情報が最初から出てくるようになる。自分好みの情報だけが簡単に集まる仕組みになっていることで、その情報を疑うことが減ってしまうが、全てのSNSが正しいとは限らない。多くの情報を目にする日常の中で、私たちはデマを拡散することなく、何が正しいのかを見極める力を仲間との議論から見出すなければいけないと思う。

新型コロナウイルス感染症が拡大しはじめた頃、コロナに対する正しい知識がない中で、コロナに関する多くのデマに振り回された人も多かったのではないだろうか。ウイルスは耐熱性がなく、36〜37度の温度で死滅するから、多くのお湯を飲んで下さい」と私の元にもLINEが届いた。人間の体温が35〜36度前後なのに、なぜウイルスが体の中では死なないのかと情報を受け取った時に疑問しかなかった。しかし、この情報を信じる人は多くの友人や知人に情報を共有したという。また世界に目を向けると、デマ情報を信じたあまり、命を落とす事例も発生している。今検索履歴などから自分好みの情報ばかりが届くフィルターバブルというものがある。例えば、ダイエツトに関するSNSを検索したり、ページを1度や2度でも見ると、次からはダイエツトに関する情報が最初から出てくるようになる。自分好みの情報だけが簡単に集まる仕組みになっていることで、その情報を疑うことが減ってしまうが、全てのSNSが正しいとは限らない。多くの情報を目にする日常の中で、私たちはデマを拡散することなく、何が正しいのかを見極める力を仲間との議論から見出すなければいけないと思う。